無線レーザスキャナ

ＮＬ２００２ＩＷ

補足取扱説明書

Ver.1.0

はじめに

このたびはレーザスキャナ NL2002IW をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、NL2002IW の外部機器との接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、初めて NL2002IW を使用する前に必ずお読みください。

ご注意

(1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。

(2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

(3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い申し上げます。

(4) 本書に基づいて NL2002IW を運用した結果の影響については、前項(3)にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださるようお願い申し上げます。

商標について

Microsoft® Windows®は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

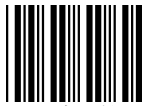
安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。

⚠警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味:

△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

⊘記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

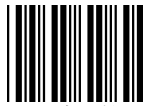
⚠警告	
重要:システム設計者へ ◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。	⊘
◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。 ➢ 煙がでている場合、変なにおいや音がしている場合 ➢ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合 ➢ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合	
◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。 事故や故障の原因になります。	⊘
◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	⊘

設定開始

◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	🚫
◆ 濡れた手で、インタフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。 感電の原因となることがあります。	🚫

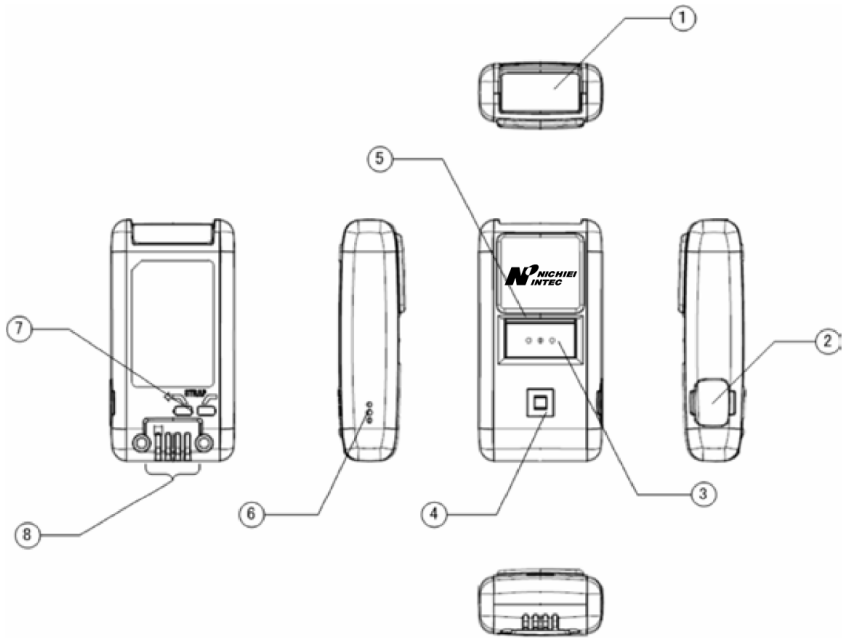
⚠警告

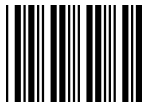
NL2002IW は、CDRH：Class2 / IEC 60825-1：Class2 のレーザ製品です。 危険ですので、以下のことは行わないでください。 ➢ レーザビームを直視しないでください。 ➢ レーザ照射窓をのぞき込まないでください。 ➢ 人に向けてレーザ照射しないでください。	🚫

⚠注意

次のようなことは、絶対に行なわないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。 ➢ スキャナ本体やインタフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いものの下敷きにならないようにしてください。 ➢ スキャナ本体をたたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。 ➢ 不安定な場所に置かないでください。 ➢ インタフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。	🚫

設定終了

設定開始

スキャナ外観図

No.	項 目	内 容
①	バーコード読み取り窓	バーコードを読み取るためのレーザが発光されます。
②	USB キャップ	USB 接続コネクタ部のキャップです。
③	トリガキー	バーコードを読み取りためのキーです。
④	ファンクションキー	アプリケーションで設定可能な機能キーです。
⑤	LED	バーコード読み取り、Bluetooth、警告等の動作状態を表示
⑥	ブザー孔	ブザー用の孔です。
⑦	ストラップ穴	ストラップ取り付け孔
⑧	端子	専用クレードルとの充電用の端子です。

設定終了

設定開始

LED 表示とブザー動作について

3 本の青LED、緑LED、赤LEDでスキャナの活動状態を表示します。

状態	色	表示	内容	ブザー
バーコード読み取り	緑	点灯	バーコードの読み取り/送信が正常に行われたことを表します。	ピロ
	橙	点灯	未接続時にバーコードデータをメモリに蓄積していることを表します。	ピロロ
	赤	点灯	バーコードデータの送信が出来なかったことを表します。	ピッピッピッ
Bluetooth 接続	青	点滅	Bluetooth の接続処理中であることを表します。	ー
	赤	点灯	Bluetooth の接続が失敗したことを表します。	ピッピッピッ
Bluetooth 切断	赤	点灯	Bluetooth を切断したことを表します。	ピッピッピッ
	赤	点灯	Bluetooth が圏外または接続相手機器から切断されたことを表します。	ピーローロー
USB ケーブル 接続時	赤	点灯	充電中である事を表します。	ー
	緑	点灯	充電が完了した事を表します。	ー
ー	橙	点滅	電池容量が少ない事を警告します(※1)	ー

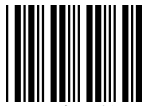
※1：速やかに本製品を充電してください。

設定終了

トラブルシューティング

現象	考えられる原因	解決方法
スキャナにまったく反応がない・LED が点灯しない・ブザー音が鳴らない・レーザが出ない。	◆ 充電が切れています。	付属のＵＳＢケーブルを接続し充電を行ってください。
	◆ ケーブルが断線しています。	接続が正しく行われているかご確認ください。
	◆ スキャナが故障しています。	
スキャナは機能しているが、バーコードを読取らない。	◆ 読もうとしているバーコードの種類が読取禁止になっています。	バーコードの読取許可を行ってください。
	◆ 読もうとしているバーコードの桁数が設定の範囲外になっています。	バーコードの桁数を設定してください。
読取音はするがデータが表示されない。	◆ Bluetooth の接続が合っていません。	接続が正しく行われているかご確認ください。
バーコードが桁落ちする。	◆ ホスト機器のデータ受信が追いついていません。	「キャラクタ間ディレイ時間の設定」を行ってください。

上記をお試しいただいても症状の改善が見られない場合は、故障の可能性がありますので、修理依頼書をご記入の上、修理依頼品と同梱で下記住所へお送りください。

尚、修理ご依頼時の送料はお客様ご負担になりますので、ご了承くださいますようお願いします。

送り先住所:
〒110－0016
東京都台東区台東3－42－5　日栄インテック御徒町第1ビル　2F
日栄インテック株式会社　バーコードグループ　修理担当者　宛
電話　03－5816－7141

設定手順

(1)　変更したいパラメータの記載されているページを開きます。

(2)　『設定開始』バーコードを読取ります。ブザーが「ピロリッ」と1回鳴り、一定間隔で「ピッ、ピッ・・・」と鳴り続けます。

(3)　変更したいパラメータの設定バーコードを読取ります。『設定開始』バーコードを読取ったときと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。

(4)　『設定終了』バーコードを読取ります。『設定開始』バーコードと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。

複数のパラメータを変更する場合は、1～3を同様に繰り返します。

※設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

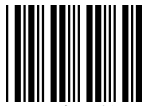
出荷時設定(初期設定)

NL2002IW を出荷時設定(設定項目名に下線が付いている設定)に戻すには、下記の設定バーコードを上から順に読取ります。

開　始

初期化

終　了

※パソコン、タブレット、スマートフォン等との接続については別冊の取扱説明書をご参照ください。
上記初期化を行いますと接続先の設定(iPhoneモード, HIDモード等)も消えてしまうため接続先の設定から再設定する必要がありますので読ませる際はご注意ください。

読取り動作の設定

読取りモードの設定

トリガモード

トリガモード

トリガモードでは、トリガボタンを押している間、レーザ発光し読取りを行ないます。バーコードを読取るとレーザ消灯します。また、バーコードを読取る前にトリガボタンを放すとレーザ消灯します。

※レーザダイオード保護のため、トリガボタンを押し続けていても約 2 秒でレーザ消灯します。

連続モード

連続モード

連続モードでは、バーコードを読み取ったあと、15 ページの『読取り可能時間設定』で設定されている時間が経過するまでレーザを消灯しません。レーザ照射している間は続けて読取りを行えます。

※連続モードに設定した状態で、2つのバーコードにレーザをあてた場合、交互に連続してバーコードを読取る場合がありますので、設定時にはご注意ください。

設定開始

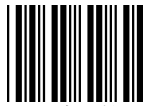
読取り可能時間設定

指定した時間内にバーコードを読み取れない時に自動的に読取り動作を停止する機能です。レーザモジュールの保護のため、初期設定では 2 秒に設定されています。

0 秒

1 秒

<u>2 秒</u>

4 秒

6 秒

読取り時間 10 倍

設定終了

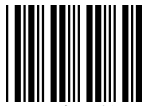
設定開始

キャラクタ間ディレイ時間の設定

PC／ホスト機器の受信処理が遅い場合、1つ1つのキャラクタ送信間にディレイ(遅延)を発生させることで確実にデータを送信する機能です。

キャラクタ間ディレイなし

ディレイ 10 ミリ秒

ディレイ 20 ミリ秒

ディレイ 30 ミリ秒

※“キャラクタ間ディレイなし”にディレイ時間を近づけるほどデータが桁落ちする可能性が高まりますので設定の際は、ご注意ください。

設定終了

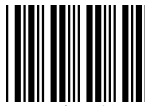
設定開始

読取りブザー設定

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定

ON

OFF

読取り時ブザー音の音色設定

単音

複音

設定終了

設定開始

読取り時ブザー音長の設定

長（100 ミリ秒）

中（50 ミリ秒）

読取り時ブザー音量の設定

大

中

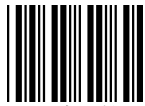
設定終了

設定開始

デコード多重チェック

1 回の読取り動作で、自動的に 2 回以上連続して読取り、その結果を照合することにより、データの信頼性を高めます。照合結果が規定回数一致した段階で、ホストにデータを転送します。

照合回数 0 回

照合回数 1 回

照合回数 2 回

照合回数 3 回

設定終了

設定開始

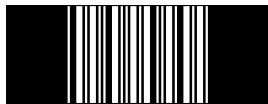
反転バーコード

通常、バーコードは白地に黒で印刷されますが、希に黒地に白で印刷されたものもあります。この黒地に白で印刷されたものを反転バーコードといい、読取りが難しいバーコードになります。

この設定は、反転バーコードに特化して、読取り易くする設定になります。ただし、『反転バーコード読取り』設定を施すと、通常のバーコードが読みづらくなります。

通常バーコード読取り

反転バーコード読取り

通常および反転バーコード読取り

通常バーコード読取り（反転読取り設定時用）

通常および反転バーコード読取り（反転読取り設定時用）

設定開始/設定終了（反転読取り設定時用）

設定終了

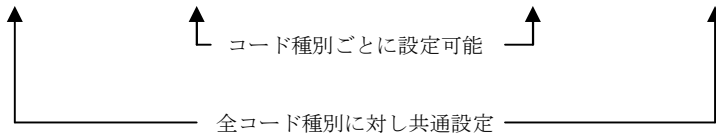
データフォーマットの設定

はじめに

NL2002IW は、各バーコード種別ごとに、任意のキャラクタをデータの前後に付加することができます。

プリフィックス(データ前に付加するキャラクタ)およびサフィックス(データ後に付加するキャラクタ)を、それぞれ最大 4 キャラクタずつ設定できます。

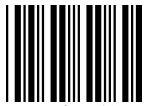
また、全コード種別に対して共通のコモンプリフィックスおよびコモンサフィックスを、それぞれ最大 8 キャラクタずつ設定できます。

データに対するコモンプリフィックス、コモンサフィックス、プリフィックス、サフィックスの付加位置は次の通りです

設定開始

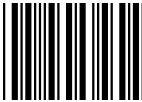
プリフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、23 ページからの『コード別プリフィックス設定』バーコードを読取り、巻末 57 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読取ります。プリフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンプリフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

設定例:コード 39 の前に「1234」を付加し設定する。
『設定開始』→コード別プリフィックス設定『コード 39』 →フル ASCII バーコード『1』、『2』、『3』、『4』→『設定終了』
※コモンプリフィックスは種別コードごとに付加することができません(全種別バーコード共通で付加)ので付加する際はご注意ください。

設定終了

（前ページから）

コード別プリフィックス設定

UPC-A

UPC-E

EAN13/JAN13

EAN8/JAN8

コード39

全コード

UPC-A アドオン

UPC-E アドオン

EAN13/JAN13 アドオン

EAN8/JAN8 アドオン

マトリックス2オブ5

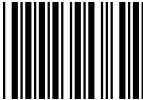
（次ページへ続く）

設定開始

（前ページから）

インターリーブド 2 オブ 5

コード 93

MSI/Plessey

GS1 Databar

コモンプリフィックス

Codabar(NW7)

インダストリアル 2 オブ 5

コード 128

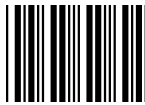
IATA

PDF417

全プリフィックスのクリア

※コモンプリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンプリフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。

プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全プリフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

設定終了

設定開始

サフィックスの設定

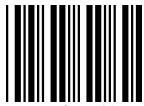
『設定開始』のバーコードを読んだあと、26 ページからの『コード別サフィックス設定』を読取り、巻末 57 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読取ります。サフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンサフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

ターミネータについて

NL2002IW では、ターミネータをコモンサフィックスに設定しています。初期設定の状態では、ターミネータとして「Enter」が、全コード種別に対するコモンサフィックスに設定されています。

したがって、新たにコモンサフィックスの設定を行う場合は、最後に「Enter」を付加しないと、設定を行ったバーコード種別に対して「ターミネータなし」の状態になります。

設定例:コード 39 の後ろに「1234」を付加し、ターミネータに「Enter」を設定する。

『設定開始』→コード別サフィックス設定『コード 39』 →フル ASCII バーコード『1』、『2』、『3』、『4』→コード別サフィックス設定『コモンサフィックス』→特殊キー対応バーコード『Enter』→『設定終了』

※『Enter』は初期状態で付いていますので消していなければ設定する必要はありません。

コモンサフィックスは種別コードごとに付加することができません(全種別バーコード共通で付加)ので付加する際はご注意ください。

(次ページへ続く)

設定終了

設定開始

サフィックスの設定(続き)

(前のページより)

コード別サフィックス設定

全コード

UPC-A

UPC-A アドオン

UPC-E

UPC-E アドオン

EAN13/JAN13

EAN13/JAN13 アドオン

EAN8/JAN8

EAN8/JAN8 アドオン

コード 39

マトリックス 2 オブ 5

(次のページへ)

設定終了

設定開始

サフィックスの設定(続き)

(前のページより)

インターリーブド 2 オブ 5

コード 93

MSI/Plessey

GS1 Databar

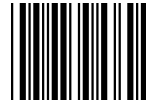
コモンサフィックス

Codabar(NW7)

インダストリアル 2 オブ 5

コード 128

IATA

PDF417

全サフィックスのクリア

※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全サフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンサフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンサフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。

設定終了

読取りバーコードの設定

全コード種別読取許可(アドオン除く)

読み取るバーコード種別がわからないときに設定してください。ただし、この設定を施すと、予期せぬバーコードを読取ったり、バーコードに近似した波形となるものをバーコードとして認識する場合がございます。

バーコードの種別がわかった時点で、読取るバーコード種別のみ読取許可の設定を施すことをお勧めします。

アドオンを除く全コード読取許可

全コード種別読取禁止

NL2002IW には、バーコード種別ごとに読取りを禁止する設定バーコードがございません。読取りを行うバーコード種別のみを許可する場合には、このバーコードを読み取ったあと、個別に読取許可を行ってください。

全コード読取禁止

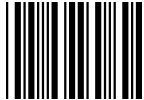
設定開始

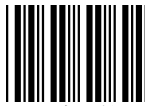
コード 39 の設定

読取り許可

コード 39 の読取りを許可

フル ASCII 変換

変換する（コード 39 フル ASCII）

変換しない

スタート／ストップキャラクタ転送

転送する

転送しない

設定終了

コード 39 の設定(続き)

チェックキャラクタ検証と末尾文字の転送

チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない

コード 39 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

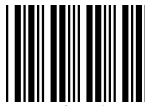
『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 39 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

インタリーブド 2 オブ 5 の設定

読取り許可

インタリーブド 2 オブ 5 の読取りを許可

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない

インタリーブド 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインターリーブド 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インターリーブド 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインターリーブド 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

設定開始

インダストリアル 2 オブ 5 の設定

読取り許可

<u>インダストリアル 2 オブ 5 の読取りを許可</u>

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタ検証する

<u>チェックキャラクタ検証しない</u>

<u>末尾文字を送信する</u>

末尾文字を送信しない

設定終了

インダストリアル 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

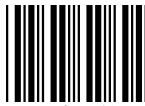
『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インダストリアル 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

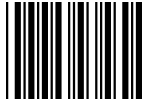
最大読取り桁数の指定

設定開始

マトリックス 2 オブ 5 の設定

読取り許可

マトリックス 2 オブ 5 の読取りを許可

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタ検証する

チェックキャラクタ検証しない

末尾文字を送信する

末尾文字を送信しない

設定終了

マトリックス 2 オブ 5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するマトリックス 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※マトリックス 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。

読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するマトリックス 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

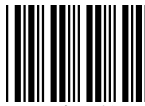
最大読取り桁数の指定

設定開始

UPC の設定

読取り許可

UPC の読取りを許可

UPC アドオン 2 桁 の読取りを許可

UPC アドオン 5 桁 の読取りを許可

(次ページへ続く)

設定終了

UPC の設定(続き)

(前ページより)

UPC-A 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送

<u>UPC-A の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送</u>

UPC-A の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送なし

UPC-A の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送

UPC-A の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送なし

(次ページへ続く)

設定開始

UPC の設定(続き)

(前ページより)

UPC-E 設定

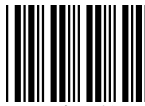
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送

UPC-E の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送

UPC-E の先頭 0 なし　チェックキャラクタ　転送なし

UPC-E の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送

UPC-E の先頭 0 あり　チェックキャラクタ　転送なし

設定終了

設定開始

EAN/JAN の設定

読取り許可

EAN/JAN の読取りを許可

EAN/JAN アドオン 2 桁 の読取りを許可

EAN/JAN アドオン 5 桁 の読取りを許可

定期刊行物コード(新雑誌コード)設定

この設定は、「491～」で始まる JAN コードを必ずアドオンつきで送信するための設定です。この設定を施すことにより、「491～」で始まる JANードのアドオン 5 桁を読み落とすことがなくなります

※この設定を行うときは、上記の『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取りを許可』を設定してください。『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取り許可』を設定しないと「491～」で始まる JAN コードを読み取らなくなります。

「491～」で始まる JAN コードのアドオンを必須

設定終了

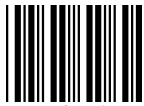
設定開始

JAN/EANの設定(続き)

チェックキャラクタの転送

JAN/EAN　13桁のチェックキャラクタ　転送する

JAN/EAN　13桁のチェックキャラクタ　転送しない

JAN/EAN　8桁のチェックキャラクタ　転送する

JAN/EAN　8桁のチェックキャラクタ　転送しない

(次ページへ続く)

設定終了

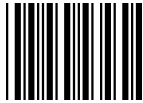
設定開始

JAN/EAN の設定(続き)

(前ページから)

ISBN 変換

図書コードを読取ったときに、ISBN に変換して転送することができます。

ISBN 変換する

ISBN 変換しない

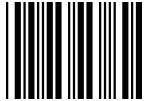
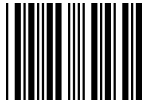
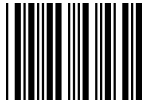
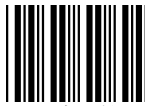
設定終了

設定開始

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定

読取り許可

コーダバーの読取りを許可

スタート／ストップキャラクタ転送

A, B, C, D/A, B, C, D で転送する

a, b, c, d/a, b, c, d で転送する

a, b, c, d/t, n, *, e で転送する

A, B, C, D/T, N, *, E で転送する

転送しない

設定終了

設定開始

チェックキャラクタの検証と末文字の転送

チェックキャラクタを検証しない

チェックキャラクタを検証する（モジュラス 10 ウエイト 1/ウエイト 2）

チェックキャラクタを検証する（モジュラス 11）

チェックキャラクタを検証する（モジュラス 16）

チェックキャラクタを検証する（7 チェック）

末文字を転送する

末文字を転送しない

設定終了

コーダバー（Codabar/ NW-7）の設定（続き）

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコーダバー(Codabar/NW7)のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コーダバー(Codabar/NW7)では、最小読取り桁数を『1桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコーダバー(Codabar/NW7)バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

コード 128 の設定

読取り許可

コード 128 の読取りを許可

GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定

　コード 128 のバーコードで、スタートキャラクタに続く第一シンボルキャラクタが<FNC1>のとき、GS1-128(UCC/EAN128)のバーコードとみなしてデータを転送するか、単なるコード 128 のバーコードとしてデータを転送するかを設定できます。

　GS1-128(UCC/EAN128)として転送する場合、2 種類の変換モードを選択できます（次頁以降）。ただし、GS1-128 変換モードを有効にすると、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 は読取無効になります。

　GS1-128 変換モードを有効にした際に、通常のコード 128 も読み取りたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効」に設定します。

GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効

　設定変更後、再び出荷時設定に戻すには、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効」に設定します。

GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効

GS1-128 変換モード 1～4 のいずれかを有効にした後で、変換モードを無効にしたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128(UCC/EAN128)無効」に設定します。

GS1-128(UCC/EAN128)無効

変換モード1

GS1-128 の AI を()で括（くく）って出力するモードです。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456 “ENT”

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 1』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

GS1-128 変換モード 1

設定開始

変換モード2

先頭の FNC1 を"]C1"に変換、2 つ目以降の FNC1(可変長データの終端)を"Ctrl＋]"に変換します。

出力データに AI は含まれます。

出力例

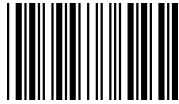
ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

"]C1" 011491234567890417990101301000 "Ctrl+]" 101234567890123456

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 3』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

GS1-128 変換モード 2

設定終了

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 128 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 128 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 128 バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

設定開始

コード 93 の設定

読取り許可

コード 93 の読取りを許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 93 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 93 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 93 バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

設定終了

MSI/Plessey の設定

読取り許可

MSI/Plessey の読取りを許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するMSI/Plessey のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※MSI/Plessey では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、誤読が発生する恐れがあります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するMSI/Plessey バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

最大読取り桁数の指定

設定開始

GS1 Databar(RSS)の設定

読取許可

GS1 Databar Omnidirectional(RSS 14)の読取りを許可

GS1 Databar Limited(RSS Limited)の読取りを許可

GS1 Databar Expanded(RSS Expanded)の読取りを許可

Composite フラグの設定

EAN.UCC Composite （合成シンボル）にて、Composite フラグを無視して、DataBar(1 次元シンボル部分)のみ読み取ることができます。

Composite フラグを無視する

Composite フラグを無視しない

設定終了

GS1 Databar の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するGS1 Databar のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するGS1 Databar バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。

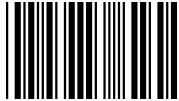
最大読取り桁数の指定

PDF417 の設定

読取許可

PDF417 の読取りを許可

マイクロ PDF417 の設定

読取り許可

マイクロ PDF417 の読取りを許可

設定開始

保守メニュー

ファームウェアのバージョン確認

バージョン確認

『設定開始』バーコードに続いて『バージョン確認』バーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンが、データとしてスキャナから転送されます。『設定終了』バーコードを読取ってください。

設定終了

附属書1. フル ASCII バーコード

Ctrl+@

Ctrl+A

Ctrl+B

Ctrl+C

Ctrl+D

Ctrl+E

Ctrl+F

Ctrl+G

Ctrl+H

Ctrl+I

Ctrl+J

Ctrl+K

設定開始

（続き）

Ctrl+L

Ctrl+M

Ctrl+N

Ctrl+O

Ctrl+P

Ctrl+Q

Ctrl+R

Ctrl+S

Ctrl+T

Ctrl+U

Ctrl+V

Ctrl+W

設定終了

（続き）

Ctrl+X

Ctrl+Y

Ctrl+Z

Ctrl+[

Ctrl+\

Ctrl+]

Ctrl+ˆ

Ctrl+_

スペース(空白)

!

“

#

（続き）

$

%

&

‘(シングルクォート)

(

)

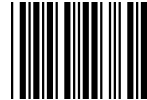
＊

+

,（カンマ）

-(ハイフン)

.

/

設定開始

（続き）

0

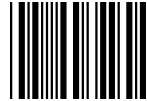
1

2

3

4

5

6

7

8

9

:

;

設定終了

設定開始

（続き）

＜

＝

＞

？

@

A

B

C

D

E

F

G

設定終了

設定開始

（続き）

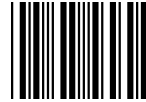
H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

設定終了

設定開始

（続き）

T

U

V

W

X

Y

Z

[

¥

]

^

_(アンダーバー)

設定終了

（続き）

`（バッククォート）

a

b

c

d

e

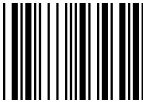
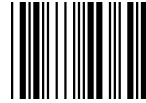
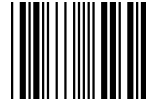
f

g

h

i

j

k

（続き）

l

m

n

o

p

q

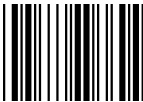
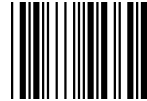
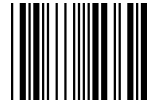
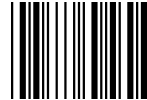
r

s

t

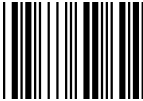
u

v

w

設定開始

(続き)

x

y

z

{

|

}

~

Ctrl+BackSpace

設定終了

附属書2．特殊キー対応バーコード

F1
F2
F3
F4
F5
F6
F7

F8
F9
F10
F11
F12
↑
↓

（続き）

←

→

Caps Lock

Tab

Return

テンキー Enter

Alt 開放

Alt 押下

Insert

Home

End

Delete

（続き）

Page Up

Page Down

Backspace

左 Ctrl 押下

左 Ctrl 開放

右 Ctrl 押下

右 Ctrl 開放

Shift 開放

Shift 押下

Esc

コード識別子(AIM)

バーコード桁数(1D=2 桁、2D=6 桁)

バーコード桁数(1D,2D=6 桁)

サンプルバーコード

JAN / EAN-13

JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁（新雑誌コード）

JAN / EAN-8

UPC-A

UPC-E

コード 39（チェックキャラクタなし）

コード 39（チェックキャラクタ付）

コード 39（フルアスキー）

コーダバー（チェックキャラクタなし）

コーダバー（チェックキャラクタ付）

コード 128

GS1-128（EAN/UCC-128）

インタリーブド 2 オブ 5

ITF-14

GS1 Databar Omnidirectional

GS1 Databar Limited

GS1 Databar Expanded Stacked

PDF417

マイクロ PDF417

日栄インテック株式会社

開発事業部 バーコードグループ

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第 1 ビル

TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140

E-Mail info@barcode.ne.jp

2014 年 3 月 24 日作成